

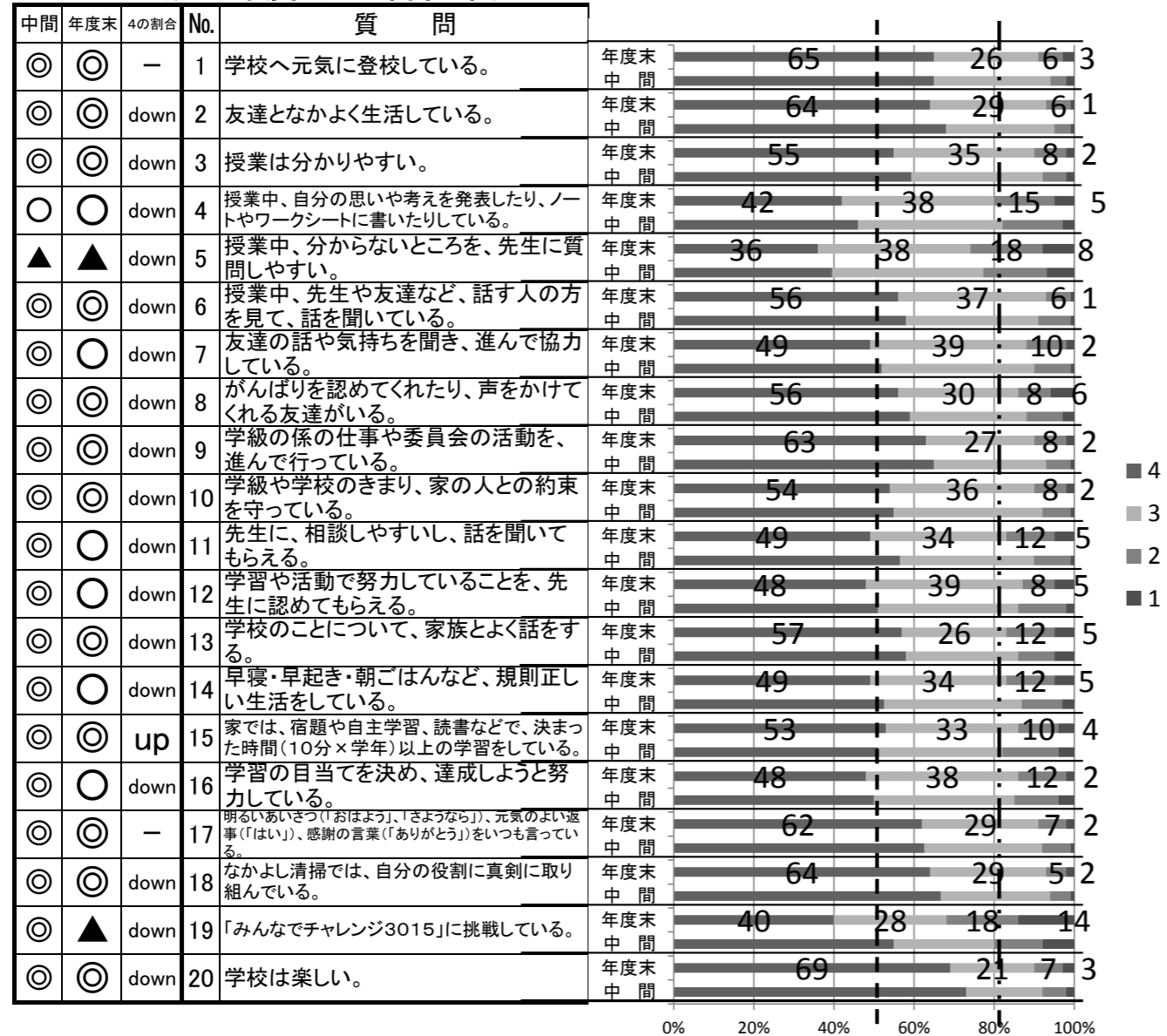
平成29年度 年度末評価の集計結果から

教務主任 前田正浩

今年度の重点目標、「思いや願いの実現を目指し、共に認め合い、進んで活動する子供の育成」のもと、①『10分×学年』の家庭学習を行う、②『おはよう』『はい』『ありがとう』の挨拶や返事をする、③『みんなでチャレンジ3015』を達成するの3つを具体的な達成目標を掲げ、4月より教育活動を進めてきました。

12月末に、児童、保護者を対象とした学校教育診断調査(年度末評価)を実施しました。7月に実施した中間評価と同様に、評価は、4(強くそう思う)、3(そう思う)、2(あまりそう思わない)、1(まったくそう思わない)の4段階で行いました。中間評価の結果と比較しながら、今年度の取組を振り返りたいと思います。

平成29年度 児童評価集計



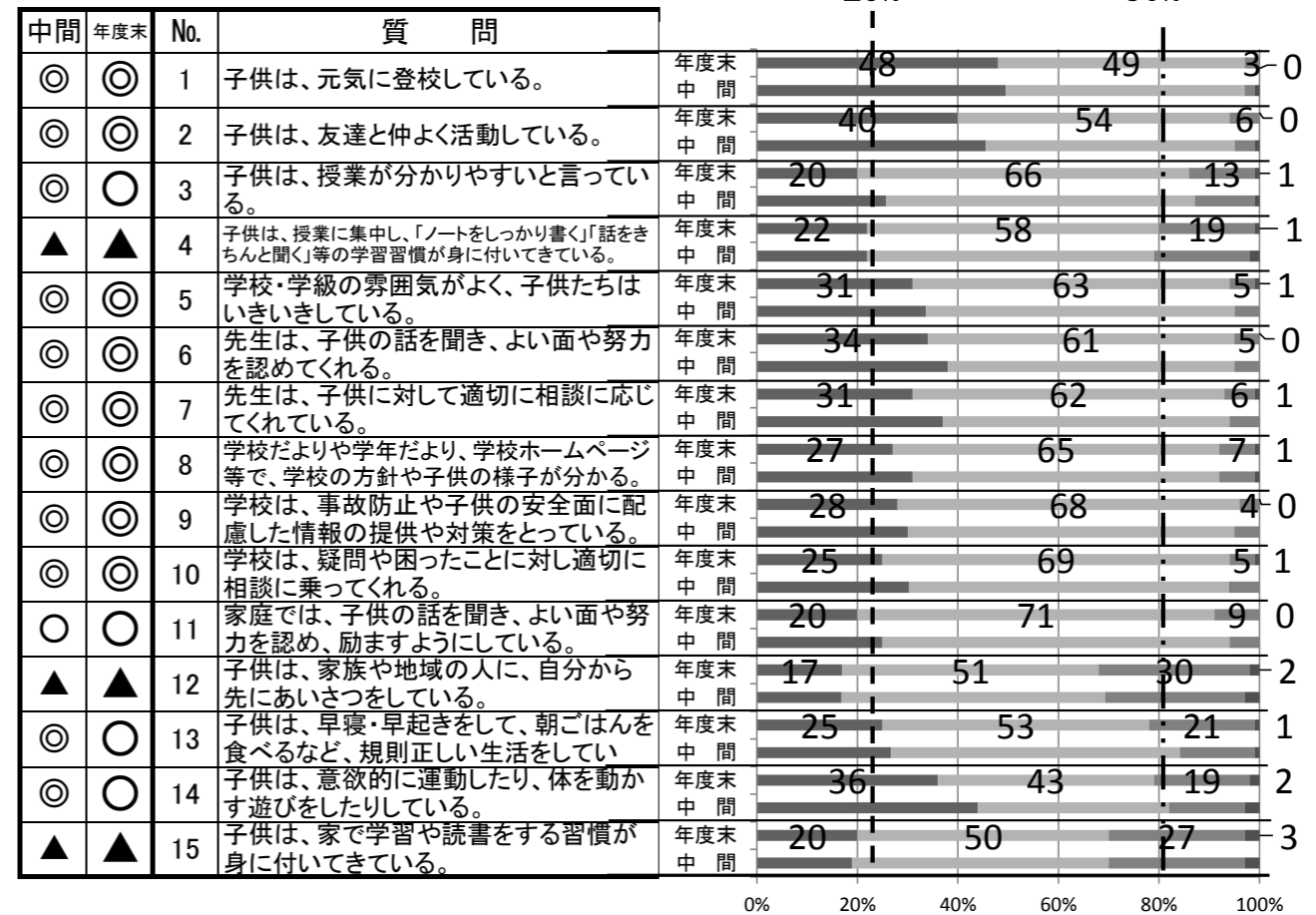
中間評価の結果と比較し、「4」と「3」の評価を合わせたものは大きく変化がないように思われますが、「4」(強くそう思う)だけの評価を取り出してみると、軒並み下がっており、「2」と「1」の割合が増えている項目があることが分かります。私たちは、このことを真摯に受け止め、危機感をもって指導の見直しを図る必要があると感じています。

特に問題だと思うのは、設問5、11、12において、「4」の評価の割合が下がっただけでなく、「2」と「1」の評価が増えていることです。学級運営において、担任は運営方針を年度初めに立てますが、それを実現するために、「担任の価値観の押しつけになってはいないか」を、自問自答してみる必要があると思います。また、設問8においては、望ましい人間関係を築く上で、子供が学級での生活で困っていることを「話し合い」で解決していこうとするような場を、どれだけ設けているかを検証する必要があると感じています。学級の文化は、子供たち自身の手でつくり上げていくものであり、担任は、そのサポート役であること、そして、そのことを認識した学級運営となっているかどうかを見直すことが急務だと感じました。

保護者の評価については、児童の年度末評価と同じ傾向にあり、やはり「4」と「3」の割合の合計ではあまり変化がないように思えますが、「4」(強くそう思う)だけを取り出してみると、7月の中間評価に比べ、ほとんどの項目で評価が下がっています。

設問3については、単純に教師の授業力だけの問題ではないように思います。学級という集団で学習を進める限り、その基盤となるのは、やはり学級の人間関係であり、その善し悪しが子供の学習に臨む態度や心情に影響を及ぼすことは当然のことです。総合的な見地から、授業の改善や学級の集団づくりについて、見直す必要があると感じます。

平成29年度 保護者評価集計



一方、保護者の皆様にも、「自分の家はどうだろうか」と、一度立ち止まって見直していただきたいこともあります。設問13「子供は、早寝・早起きをして、朝ごはんを食べるなど、規則正しい生活をしている」について、「2」(あまりそう思わない)の割合が20%を越えている点です。子供が朝から元気に活動するためには、十分な睡眠時間が確保されていることと、朝ごはんをしっかりと食べてくれることが大事であることは、今も昔も、そしてこれからの時代も変わることはありません。それぞれのご家庭でいろいろとご事情がありがたいたとは思いますが、時間の使い方や、お子さんへの働きかけを工夫されて、毎日元気に過ごすエネルギーを家で十分に蓄えて登校させていたたくとありがたいです。

昨年、秋のテレビドラマで、「教師が変われば、子供が変わる」という言葉を聞きましたが、それは、「親」も同じだと思います。保護者の皆様と手を携えて、『教師』&『親』が変われば、子供が変わると信じ、日々の教育活動を実践していきたいと思っております。

また、「10分×学年」の家庭学習の時間については、右の表の通りです。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
中間評価	96%	88%	69%	39%	25%	44%
年度末評価	98%	84%	83%	58%	54%	38%

今回の集計結果や、保護者の皆様からいただきましたご意見を参考に、来年度の計画を立てる際に生かし、本校教育の質の向上と、子供たちの確かな学力の定着のために努力していきます。今後とも、本校の教育活動に、ご理解とご協力をお願いします。